



**Press Release**  
報道関係者各位

2025年3月12日  
アイロボット・コーポレーション発表  
日本語訳(一部抜粋)

本プレスリリースは情報提供を目的として英語から一部抜粋して翻訳されています。アイロボットの公式プレスリリースは英語のみで発行しており、[こちらからご覧いただけます](#)。日本語版では正確な翻訳を心がけておりますが、微妙なニュアンスの差異が生じる場合があります。投資決定を含むいかなる目的でも、この翻訳に依存することはご自身の責任で行ってください。

## iRobot 2024 年第 4 四半期および通期の決算を発表

iRobot Elevate 戦略を引き続き推進、取締役会が戦略的な代替案の見直しを始める

消費者向けロボットのリーダーである **iRobot Corp.**(マサチューセッツ州ベッドフォード **NASDAQ:IRBT**)は本日、2024年12月28日に終了した第4四半期および通期の決算を発表しました。[PRNewswire](#)

iRobot の CEO である Gary Cohen は「2024 年は iRobot にとって変革の年でした。営業損失を大幅に削減し、粗利益率を改善し、キャッシュフローを最適化したため、5 項目の iRobot Elevate ターンアラウンド戦略が継続的かつ成功裏に実行されました」と述べました。

「iRobot は 30 年以上にわたり、ロボットフロアケアのカテゴリーを位置づけてきました。私たちは、ダイナミックな経営環境の中で、スマートホームのカテゴリー全体でビジネスを成長させ、進化させることに引き続き取り組んでいます。今後、業界のリーダーとしての地位を取り戻し、世界的に認知された象徴的なブランドであるルンバを中心とした iRobot の強固な基盤を築くために、引き続き断固たる行動を取ります。」

さらに Cohen は、「昨日、iRobot 史上最大の製品群の発売を発表しました。これにより、iRobot は私たちが創り出したカテゴリーのリーダーとしての立場をより強固にしました。重要なのは、この画期的な新製品の強力なパイプラインは、従来の製品と比較して利益の増加が見込まれ、2025 年には前年比の収益成長をサポートし始めるはずだということです。当社は、このトップラインの成長を低コスト構造で活用し、収益性の向上を推進する計画であり、今年は売上総利益の拡大と営業活動によるキャッシュフローの改善を引き続き達成する軌道に乗っています」と続けました。

当社の財務基盤の強化は、この 1 年間で目覚ましい進展を遂げました。2024 年 1 月に事業再編計画を実施して以来、iRobot は人員を 50%以上大幅に削減し、一元化により販売・マーケティング費用を削減・効率化、在庫とキャッシュの流出を削減しました。また、研究開発とサプライチェーンモデルを戦略的に変革し、共通設計と製造パートナーシップを活用することで、製品の機能、品質、ソフトウェアの革新と改善を促進し、製品のコストを大幅に削減しました。これらにより、2024 年の GAAP および非 GAAP 営業費用は前年と比較して大幅に削減されました。

当社がこれまでに講じてきた措置の継続として、iRobot の取締役会は、負債の借り換えや売却可能性など、幅広い選択肢の評価を始めました。このプロセスにおいて、当社は事業戦略の実行と顧客の進化するニーズへの対応に引き続き真摯に取り組んで参ります。



## 2024年第4四半期決算(単位:百万ドル、一株当たりの金額と割合を除く)

	2024年第4四半期	2023年第4四半期
収益	172.0ドル	307.5ドル
GAAPベースの売上総利益率 <sup>1</sup>	9.5%	18.9%
非GAAPベースの売上総利益率 <sup>1</sup>	12.8%	18.9%
GAAP営業費用	77.5ドル	110.4ドル
非GAAPベースの営業費用	66.8ドル	103.5ドル
GAAPベースの営業損失 <sup>2</sup>	(61.0ドル)	(52.2ドル)
非GAAPベースの営業損失 <sup>2</sup>	(44.8ドル)	(45.3ドル)
GAAPベースの一株当たり純損失 <sup>3</sup>	(2.52ドル)	(2.28ドル)
Non-GAAPベースの一株当たり純損失 <sup>3</sup>	(2.06ドル)	(1.82ドル)

1) 24年第4四半期のGAAPおよび非GAAPベースの売上総利益率は、当社の契約製造業者との新製品開発パラダイムへの移行の一環として、余剰部品在庫の償却およびキャンセル不可の購入契約の損失に関連する820万ドルの非経常費用(「第4四半期製造移行費用」)によりマイナスの影響を受け、GAAPおよび非GAAPベースの売上総利益率が4.8ポイント減少しました。

2) 24年第4四半期のGAAPおよび非GAAPベースの営業損失は、第4四半期の製造移行費用によってマイナスの影響を受けました。

3) 24年第4四半期には、GAAPおよび非GAAPベースの1株当たり純損失は、第4四半期の製造業移行費用によってマイナスの影響を受け、GAAPおよび非GAAPベースの1株当たり純損失は0.27ドル減少しました。

## 2024年通期の決算(単位:百万ドル、一株当たりの金額と割合を除く)

	2024年度	2023年度
収益	681.8ドル	890.6ドル
GAAPベースの売上総利益率 <sup>1</sup>	20.9%	22.0%
非GAAPベースの売上総利益率 <sup>1</sup>	21.9%	22.5%
GAAP営業費用	245.3ドル	460.5ドル
非GAAPベースの営業費用	267.3ドル	399.2ドル
GAAPベースの営業損失 <sup>2</sup>	(103.0ドル)	(264.1ドル)
非GAAPベースの営業損失 <sup>2</sup>	(117.8ドル)	(198.8ドル)
GAAPベースの一株当たり純損失 <sup>3</sup>	(4.92ドル)	(11.01ドル)
Non-GAAPベースの一株当たり純損失 <sup>3</sup>	(5.49ドル)	(7.73ドル)

1) 2024年通期のGAAPおよび非GAAPベースの売上総利益率は、当社の受託製造業者との新製品開発パラダイムへの移行の一環として、余剰部品在庫の償却およびキャンセル不可の購入契約の損失に関連する2,660万ドルの経常損失(以下「2024年製造移行費用」)によりマイナスの影響を受け、GAAPおよび非GAAPベースの売上総利益率は3.9ポイント減少しました。

2) 2024年通期では、GAAPベースおよび非GAAPベースの営業損失は、2024年の製造移行費用によってマイナスの影響を受けました。

3) 2024年通期のGAAPおよび非GAAPベースの1株当たり純損失は、2024年の製造移行費用によりマイナスの影響を受け、GAAPおよび非GAAPベースの1株当たり純損失は0.90ドル減少しました。



## その他の財務ハイライト

- 2024年12月28日現在、当社の現金および現金同等物は、2024年第3四半期末時点の9,940万ドルに対し、合計1億3,430万ドルでした。以前に発表したように、当社は在庫を購入するために4,000万ドルの制限付き現金を引き出すことを選択し、第4四半期にそれらの資金を受け取りました。これは、2024年末の合計に反映されています。
- 2024年12月28日現在、当社の在庫は、2023年第4四半期末時点の1億5,250万ドルに対し、合計7,600万ドルでした。
- 2024年12月28日現在、iRobotは2023年末から総人員を約51%削減し、541人になりました。
- 2024年第4四半期の売上高は、前年同期比で米国が47%、日本が34%、EMEAが44%減少しました。為替の影響を除いた売上高は、日本は前年同期比で31%、EMEAは42%の減少となりました。2024年第4四半期の収益は、2025年の製品発売前にセルスルーを促進するための予想以上の販促費、2024年第3四半期に前倒しされたホリデーシーズンの最大顧客からの注文のタイミング、および新製品の発売で対処している継続的な競争上の課題の影響を受けました。
- 2024年第4四半期のロボットの総売上高に占める中価格帯ロボット(希望小売価格300ドルから499ドル)と高価格帯ロボット(希望小売価格500ドル以上)の売上高は、前年同期の82%に対し、83%を占めています。

## 当社の10-K開示に関する追加情報

2024年12月28日に終了した年度のiRobotのForm 10-K年次報告書(10-K)に記載されているように、消費者の需要、競争、マクロ経済状況、関税政策などの潜在的な要因により、新製品の発売が成功するという保証はありません。これらの不確実性とその不確実性が当社の財務に与える可能性のある影響を考慮すると、2024年の連結財務諸表の発行日から少なくとも12カ月間、事業を継続できるかどうかのゴーイングコンサーン(継続企業の前提)に相当な疑義があります。追加情報は、SECに提出される10-Kに含まれます。

## 戦略的見直しに関する追加情報

流動性と財務状況をさらに強化するための継続的な取り組みの一環として、当社は既存のタームローンを修正し、主要な借入先との継続的な協力的かつ建設的な話し合いに積極的に取り組むと同時に、取締役会が資金調達の戦略的代替案のレビューを継続しています。

取締役会は、このレビューの結論のスケジュールを設定しておらず、戦略的代替案の探求が何らかの合意や取引につながるという保証はありません。当社は、さらなる開示が適切または必要であると判断するまで、このプロセスに関連する動向を開示する予定はありません。取締役会は、Canaccord GenuityとBofA Securitiesを戦略的見直しの財務アドバイザーとして迎えました。



さらに、当社は Neal Goldman を独立社外取締役役に任命しました。Goldman は、上場企業の取締役会での豊富な経験を持ち、テクノロジー業界と小売業界全体の戦略的計画、財務管理、企業再生コンサルティングに深いバックグラウンドを持つ経験豊富なエグゼクティブです。当社は、本日発行された別のプレスリリースで追加情報を提供しました。

## 2024 年第 4 四半期および通期の決算説明会

これらの動向を踏まえ、当社は、本日 2025 年 3 月 12 日午前 8 時 30 分(米国東部時間)に予定されていた 2024 年第 4 四半期および通期の決算説明会およびウェブキャストをキャンセルしました。現時点では 2025 年の見通しを発表していません。

### ■アイロボット・コーポレーションについて

アイロボットはグローバルに展開する家庭用ロボットカンパニーです。使う人に寄り添った思いやりのある技術と、安心して任せられるホームイノベーションによって、豊かな暮らしを共に創造することをビジョンにロボットのデザインと製造を行っています。2002 年に「ロボット掃除機ルンバ®」の発売を開始し、ロボット掃除機市場を創出して以来、全世界で数千万台に上るロボットの販売実績を誇ります。アイロボットの製品ポートフォリオは、清掃、マッピング、ナビゲーションにおける独自のテクノロジーと高度なコンセプトを特徴とし、これらを活用することでロボットとスマートホームデバイスのエコシステムを構築、家のメンテナンスを容易にし、衛生・健康的な生活の場を提供します。

[www.irobot.com](http://www.irobot.com)